農業用排水対策事業の問題点について

三浦賢治　議員

農業用排水対策について

三浦　我が町の基幹産業は農業です。農業の収入を上げ、生活基盤を安定させることが重要な課題ではないかと思っています。農業用排水についてお伺いいたします。平成22年度に行われた排水実態調査の内容とその結果をもとに熊本県が排水対策事業基盤調査を実施されたが、この事業内容はどういうものか。

農地整備課長　排水実態調査では、竜北地域の上流域・鹿野から野津地域の排水不良の原因を把握するため調査を行いました。調査内容は、現地調査で竜北地域の現況排水路の現状確認、排水系統の把握、県道付近に設置されている転倒堰の確認等を行い、導水路、幹線排水路の現況の流下能力の算定を行いました。

三浦　氷川排水機場の、導水路の延長はどのくらいあるのか。竜北地域上流区域の排水不良箇所はどのくらいあるのか。

農地整備課長　1号導水路、2号導水路合せて2500メートルです。それと竜北地区上流域の鹿野・野津地域の排水不良といいますのは、現在多発するゲリラ豪雨の中で、それにつながる導水路を中心に、転々と冠水が起きている状況であり、何処といった特定の場所はなく、全般的に冠水が起こっています。

氷川排水機場

三浦　幹線排水路の転倒堰の設置目的と、この転倒堰を撤去した場合、下流域の鹿野、網道地区の農地にどのような影響を与えるか。

農地整備課長　県道上にあります転倒堰については、県営竜北地区圃場整備事業の幹線排水路改修に伴い、この転倒堰より取水する農業用水及び集落内維持用水の確保、並びに非常災害時における流量調整を目的として設置され、昭和59年3月に当時の関係区長、鹿島・鹿野、網道6地区の区長で、堰の管理取扱い運用についての取決めがなされ、協定書が締結されております。この堰を仮に撤去した場合には、非常災害時の流量調整の役割を果たさなくなり、下流域の鹿野・網道地区へ排水の到達時間が早まり、排水機場の早期運転を行っても追いつかない状態となり、今以上に冠水被害が拡大する懸念があると思われます。

空き家対策について

三浦　高齢化社会が進み、高齢者の世帯が増加し、居住されなくなった家屋が維持管理をされなくて倒壊や外壁の落下などの恐れのある危険な空き家が社会問題となっています。そこで本町の空き家件数はどのくらいあるのか、危険な空き家に対して指導をされているか。

総務課長　氷川町では平成21年12月に開催されました区長会議で担当地区内の危険性の高い荒廃家屋等の地区内調査を依頼いたしました。翌年2月にその調査をもとに居住者や所有者を割り出しています。

現行では個人財産に対しての改善指導ができないことから、管理を十分に行ってもらい改善の依頼を所有者にしています。

三浦　氷川排水機場は昭和56年に設置され、排水ポンプの能力低下が懸念されています。基幹産業の農業を守るためにも、導水路の整備と排水ポンプの更新をしていただきたい。

農地整備課長　氷川排水機場の適正な管理を行うため、土地改良事業団体連合会が事業主体で実施している施設管理技術者育成対策事業に加入し、定期的にポンプ、ゲート等の機器類の点検を行っています。氷川排水機場においては、平成21年度に機能保全計画を策定し、計画的に更新を進めていくことで県と協議を進めているところです。

荒廃した空き家

氷川町道路整備基本計画について

江嵜　悟　議員

江嵜　道路整備基本計画策定協議会は二回開催され、二回だけでこの基本計画が決定されたのですか。

建設下水道課長　第一回目の協議会で十五名の委員さんより意見や課題を頂き、関係課長の幹事会で検討協議し、二回目の協議会で承認を頂きました。

江嵜　この計画は、三十年間の大切な計画で、協議会に出た委員の方から、町全体のことはあまり良く分からないし、執行部が提出した物で最後の協議会だから賛成したと聞きました。内容は精査してみると、この十年間に新設する道路は、町長出身の高塚大野地区に一本だけ、二億八千万円使って作るとなっています。中心商店街、道の駅、産業の拠点を通らない総合振興計画に全く関係ない道路です。

本当に氷川町にとっての道路整備基本計画ですか。

町長　この計画には、18路線の新規計画を謳い込み、総合的に網羅した基本計画です。財政確保のため基本計画は必要で、一つの資料となると思っています。時代も変わるわけで見直すべきことは、柔軟に対応していきます。

江嵜　合併した当初から三号線を使わないで、宮原と本庁舎を結ぶ合併道路を作ると計画されていましたが、その道路は、中期計画で十年以内の短期計画に入っていません。

合併していちばん最初に、宮原地区と竜北地区の距離を縮める道路整備計画が必要ではないですか。

道路基本整備計画は、議会の承認を必要としませんが、もっと民意を反映した計画を作ってほしいものです。

インター接続が望まれる道路

スマートインターチェンジ整備状況について

江嵜　インターチェンジの整備状況をお伺いします。

企画財政課長　現在の状況は、用地等の補償算定、現地調査が完了し用地買収に入っています。金額提示と詳細協議が、三分の二ほど終っており、24年度末の完了予定です。

文化財調査は、4か所の試掘調査が終わり、1か所が残っています。本調査は、段横穴群調査は順調に進み、四ツ江遺跡が本調査に入ります。

宇城市側は、用地買収が完了し道路工事中です。ネクスコ側は、本体と橋梁の工事が、10月から開始されます。

インターの名称については、氷川と宇城を入れた名称に絞られ議会の特別委員会で最終調査に入っています。名称案の最終決定は、建設促進対策調査特別委員会で行います。

供用開始予定は、平成26年4月です。

江嵜　用地買収で契約に至っていますか。

企画財政課長　9月下旬から契約、登記に入ります。

江嵜　町長の土地の用地買収協議は行われていますか。

企画財政課長　町長の分も行っています。

江嵜　前回、議長から個人のことだから質問を止めなさいとのことでしたが、公人として、町長が、町の税金で自分の土地を自分で買うのですから、町民に説明責任があると思います。

町長に対しての提示額を教えてください。親戚の方の分は必要ありません。

企画財政課長　今後の用地交渉に支障をきたしますので、公人といえども完了するまで報告できません。

江嵜　補償額の提示を受けた、公人としての町長から答弁をお願いします。

町長　風評によると補償額が数千万円と聞いておりますが、公人として義務があれば公表します。

江嵜　義務じゃなくても自発的に町民にちゃんと買収価格を説明する責任があると思います。インターチェンジ名称を町長は、議会に決めてくださいと投げた真意を聞かせてください。

町長　宇城市も氷川町も住民の代表である議会で大いに議論協議をして頂いています。私が、お願いしますとは言っておりません。

最終的には、最高責任者として氷川町の言い分を伝えていきます。

江嵜　私は、インターチェンジ建設に反対していますので、建設促進の委員会には入っていませんので協議には参加していません。

名称については、町長が、議会に対して名称提示する考えはありませんか。

町長　町民の皆様方の意向を踏まえ、議会で協議を深めて頂きたい。議会の皆様が決められない、市長と町長で決めなさいと一任されると宇城市長と町長で決定しなければならないと思っています。先ほどの道路基本計画も私の一存で作った訳ではありません。皆さんの意見を聞いています。

江嵜　最終決定は、町長がするのです。道路基本計画も町長が決めたのですよ。町長のやり方は、そのようにして逃げていますよ。インターチェンジ名称も自分で決断しないで逃げていると思います。もっと自分の色を出して町政運営に当たって欲しい。